

灰塚の観音堂

—寺迫—



最近改修された観音堂

灰塚集落の高台にある観音堂は、「聖観音坐像」が祀られ、この地区のみなさんに代々守られてきました。救いを求める者の心に応じて千変万化するといわれる観音菩薩への信仰は、地藏信仰とともに古くから民間信仰に根をおろしてきました。この観音堂の建立時期について確認はされていませんが、古老の話によると、大友家家臣の一部が落ち武者となり、矢部を経由してこの地に定住し、亡くなった人々の供養と集落の安全を願って建立されたと言い伝えられています。

話を聞いた古老の始祖の墓は、万治元(1658)年に建てられており、他の墓は極楽浄土のある西向きに建っている中で、始祖の墓だけは殿様へ背を向けては失礼にあたるとの遺言により、大分の方(東側)を向いて建てられています。

毎年3月に「初願たて」、4月には「座祭り」、9月には「千度参り」が行われています。千度参りでは集落みんなでお参りし、木の葉を一枚ずつ置きながら回数を数え、千回を達成します。また以前は12月に「観音さんの日」として、友人や親戚を招待してご馳走を振る舞ったそうです。

現在は竹林に囲まれています。建立当時は眼下に集落があり、向こうに益城三山を眺めることのできる一等地であったことから、集落にとって大切な観音堂であったことが推察されます。

【訂正とお詫び】 1月号の「益城の文化財」で誤りがありましたので訂正します。
 安永神社(馬水) ⑤ 安永神社(安永)

俳句

早川宏次 選

くり返す多難な政りの年のあけ
 初霜に滑り心はバレリーナ
 掃き初めやまづは玄関清しかり
 初詣で子に手をひかれ段のぼり
 誕生に餅を背負いて初孫の
 初日の出雲間を割ってまぶしけり
 津波くる早く逃げてと消えた春
 寒椿冬の寒さに色を添え
 穏やかに年の始めの祝膳

木山 増岡 伸禧
 惣領 小森英美子
 広崎 松原まゆみ
 木山 山口サツキ
 惣領 阪口 基明
 寺迫 藤田 光子
 下陳 城 陶子
 惣領 阪口由美子
 惣領 新居 露子

狂句

田上富岳 選

声からし 呼べどゆすれど起きぬ母
 声からし 風邪で休むち電話さす
 声からし おめき通しの選挙カー
 声からし 何んば言わんとしとらすか
 声からし 吾が子が走る徒歩競争
 今ならば かかえてみたが上りやせん
 今ならば 親の気持ちのようわかる
 今ならば 嬢に詫げれば済むこった
 今ならば まだ息はある救急車
 今ならば やっぱおでんをつつき合い

島田 堀川 骨鶏
 宮園 永瀬 美波
 木山 増岡 酔粹
 宮園 井藤 吉郎
 下陳 山田 凡骨
 寺迫 藤田 光子
 広崎 松原まゆみ
 寺迫 左 喜樹
 下陳 山田 凡骨
 惣領 阪口 基明

狂句次号の課題 「浮き沈み」やり繰りして

投稿は役場広報係まで。
 投稿締切日は毎月15日です(当日必着)。
 ※数種に投稿される場合は、別にお送りください。